

【問1】右図に示すような片持ばりに等分布荷重 q と B 点に集中モーメント M_0 が作用するとき、

(1) たわみ: $y\left(\frac{x}{\ell}\right)$

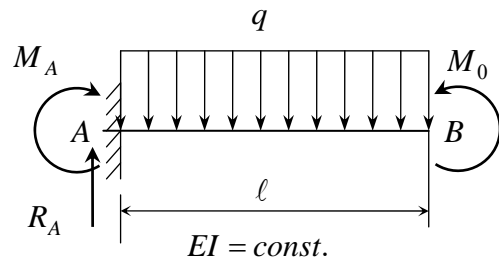
(2) たわみ角: $\theta\left(\frac{x}{\ell}\right) = y'\left(\frac{x}{\ell}\right)$

の式を求めよ。また、

(3) B 点のたわみ y_B とたわみ角 θ_B を求めよ。

(4) $y_B = 0$ となる M_0 を求め、そのときのたわみ角 θ'_B を求めよ。

ただし、はりの曲げ剛性は、 EI で一定とする。



【解答】

《解法Ⅰ》右図のように考えて曲げモーメントを求め、 $\frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{M}{EI}$ の式から求める方法

(1)(2) モーメントの釣合から、 $M + q(\ell - x) \cdot \frac{\ell - x}{2} = M_0$

はりのたわみと曲げモーメントの関係式 $\frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{M}{EI}$ にこれを用いると、

$$EIy'' = -M = \frac{1}{2}q(\ell - x)^2 - M_0$$

$$EIy' = -\frac{1}{6}q(\ell - x)^3 - M_0x + C_1$$

これを逐次積分すると、

$$EIy = \frac{1}{24}q(\ell - x)^4 - M_0 \frac{x^2}{2} + C_1x + C_2$$

これに以下のような境界条件を与えて、積分定数 C_1, C_2 を求める。

1) $x = 0$ のとき、 $\theta = y' = 0$ より、 $-\frac{1}{6}q\ell^3 + C_1 = 0 \quad \therefore C_1 = \frac{1}{6}q\ell^3$

2) $x = 0$ のとき、 $y = 0$ より、 $\frac{1}{24}q\ell^4 + C_2 = 0 \quad \therefore C_2 = -\frac{1}{24}q\ell^4$

よって、はりのたわみ角 $\theta(x)$ とたわみ $y(x)$ の式は、次のようになる。

$$EIy' = -\frac{1}{6}q(\ell - x)^3 - M_0x + \frac{1}{6}q\ell^3$$

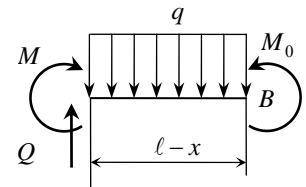
$$EIy = \frac{1}{24}q(\ell - x)^4 - M_0 \frac{x^2}{2} + \frac{1}{6}q\ell^3x - \frac{1}{24}q\ell^4$$

これを等分布荷重の式と集中モーメントの式に分けて表すと、次のようになる。

$$EIy' = \left\{ \frac{1}{6}q\ell^3 - \frac{1}{6}q(\ell - x)^3 \right\} - M_0x$$

$$EIy = \left\{ \frac{1}{24}q(\ell - x)^4 + \frac{1}{6}q\ell^3x - \frac{1}{24}q\ell^4 \right\} - M_0 \frac{x^2}{2}$$

これをさらに $\left(\frac{x}{\ell}\right)$ の形で表すと、次のようになる。



$$EIy' = ql^3 \left[\frac{1}{6} - \frac{1}{6} \left\{ 1 - \left(\frac{x}{\ell} \right) \right\}^3 \right] - M_0 x$$

$$EIy = ql^4 \left[\frac{1}{24} \left\{ 1 - \left(\frac{x}{\ell} \right) \right\}^4 + \frac{1}{6} \left(\frac{x}{\ell} \right) - \frac{1}{24} \right] - M_0 \frac{x^2}{2}$$

よって、はりのたわみ角 $\theta\left(\frac{x}{\ell}\right)$ とたわみ $y\left(\frac{x}{\ell}\right)$ の式は、次のようになる。

$$\theta\left(\frac{x}{\ell}\right) = \frac{ql^3}{EI} \left[\frac{1}{6} - \frac{1}{6} \left\{ 1 - \left(\frac{x}{\ell} \right) \right\}^3 \right] - \frac{M_0 \ell}{EI} \left(\frac{x}{\ell} \right)$$

$$y\left(\frac{x}{\ell}\right) = \frac{ql^4}{EI} \left[\frac{1}{24} \left\{ 1 - \left(\frac{x}{\ell} \right) \right\}^4 + \frac{1}{6} \left(\frac{x}{\ell} \right) - \frac{1}{24} \right] - \frac{M_0 \ell^2}{2EI} \left(\frac{x}{\ell} \right)^2$$

(3) B 点のたわみ y_B とたわみ角 θ_B は、次のようになる。

$$\theta_B = \theta(1) = \frac{1}{6} \cdot \frac{ql^3}{EI} - \frac{M_0 \ell}{EI}$$

$$y_B = y(1) = \frac{ql^4}{EI} \left[\frac{1}{6} - \frac{1}{24} \right] - \frac{M_0 \ell^2}{2EI} = \frac{1}{8} \cdot \frac{ql^4}{EI} - \frac{M_0 \ell^2}{2EI}$$

(4) B 点のたわみ $y_B = 0$ となるのは、

$$y_B = \frac{1}{8} \cdot \frac{ql^4}{EI} - \frac{M_0 \ell^2}{2EI} = 0 \quad \therefore M_0 = \frac{1}{4} \cdot ql^2$$

このときのたわみ角 θ'_B は、次のようになる。

$$\theta'_B = \frac{1}{6} \cdot \frac{ql^3}{EI} - \frac{1}{4} \cdot \frac{ql^3}{EI} = \frac{2-3}{12} \cdot \frac{ql^3}{EI} = -\frac{1}{12} \cdot \frac{ql^3}{EI} \quad \therefore \theta'_B = -\frac{1}{12} \cdot \frac{ql^3}{EI}$$

《別解》

$$EIy'' = -M = \frac{1}{2} q(\ell - x)^2 - M_0 = \frac{1}{2} ql^2 - qlx + \frac{1}{2} qx^2 - M_0$$

$$EIy' = \frac{1}{2} ql^2 x - \frac{1}{2} qlx^2 + \frac{1}{6} qx^3 - M_0 x + C_1$$

これを逐次積分すると、

$$EIy = \frac{1}{4} ql^2 x^2 - \frac{1}{6} qlx^3 + \frac{1}{24} qx^4 - M_0 \frac{x^2}{2} + C_1 x + C_2$$

これに以下のような境界条件を与えて、積分定数 C_1 , C_2 を求める。

1) $x = 0$ のとき、 $\theta = y' = 0$ より、 $C_1 = 0$

2) $x = 0$ のとき、 $y = 0$ より、 $C_2 = 0$

よって、はりのたわみ角 $\theta(x)$ とたわみ $y(x)$ の式は、次のようになる。

$$EIy' = \frac{1}{2} ql^2 x - \frac{1}{2} qlx^2 + \frac{1}{6} qx^3 - M_0 x$$

$$EIy = \frac{1}{4} ql^2 x^2 - \frac{1}{6} qlx^3 + \frac{1}{24} qx^4 - M_0 \frac{x^2}{2}$$

これを $\left(\frac{x}{\ell}\right)$ の形で表すと、次のようになる。

$$EIy' = q\ell^3 \left[\frac{1}{2} \left(\frac{x}{\ell} \right) - \frac{1}{2} \left(\frac{x}{\ell} \right)^2 + \frac{1}{6} \left(\frac{x}{\ell} \right)^3 \right] - M_0 x$$

$$EIy = q\ell^4 \left[\frac{1}{4} \left(\frac{x}{\ell} \right)^2 - \frac{1}{6} \left(\frac{x}{\ell} \right)^3 + \frac{1}{24} \left(\frac{x}{\ell} \right)^4 \right] - M_0 \frac{x^2}{2}$$

よって、はりのたわみ角 $\theta \left(\frac{x}{\ell} \right)$ とたわみ $y \left(\frac{x}{\ell} \right)$ の式は、次のようになる。

$$\theta \left(\frac{x}{\ell} \right) = \frac{q\ell^3}{EI} \left[\frac{1}{2} \left(\frac{x}{\ell} \right) - \frac{1}{2} \left(\frac{x}{\ell} \right)^2 + \frac{1}{6} \left(\frac{x}{\ell} \right)^3 \right] - \frac{M_0 \ell}{EI} \left(\frac{x}{\ell} \right)$$

$$y \left(\frac{x}{\ell} \right) = \frac{q\ell^4}{EI} \left[\frac{1}{4} \left(\frac{x}{\ell} \right)^2 - \frac{1}{6} \left(\frac{x}{\ell} \right)^3 + \frac{1}{24} \left(\frac{x}{\ell} \right)^4 \right] - \frac{M_0 \ell^2}{2EI} \left(\frac{x}{\ell} \right)^2$$

(3) B 点のたわみ y_B とたわみ角 θ_B は、次のようになる。

$$\theta_B = \theta(1) = \frac{q\ell^3}{EI} \left[\frac{1}{2} - \frac{1}{2} + \frac{1}{6} \right] - \frac{M_0 \ell}{EI} = \frac{1}{6} \cdot \frac{q\ell^3}{EI} - \frac{M_0 \ell}{EI}$$

$$y_B = y(1) = \frac{q\ell^4}{EI} \left[\frac{1}{4} - \frac{1}{6} + \frac{1}{24} \right] - \frac{M_0 \ell^2}{2EI} = \frac{6-4+1}{24} \cdot \frac{q\ell^4}{EI} - \frac{M_0 \ell^2}{2EI} = \frac{1}{8} \cdot \frac{q\ell^4}{EI} - \frac{M_0 \ell^2}{2EI}$$

【問2】 下図-Aに示す静定トラスについて、次の設問に答えよ。

(1) 支点反力 H_A , V_A , H_B を求めよ。

(2) すべての部材力 U_1 , U_2 , D_1 , D_2 , V_1 , V_2 , L を求めよ。

(3) 荷重 P を漸次増加するとき、最初に座屈を起こす荷重 P_{CR} とその部材を求めよ。

なお、各部材は、ヤング係数 E で、その断面は下図-Bに示すような中空長方形断面とする。

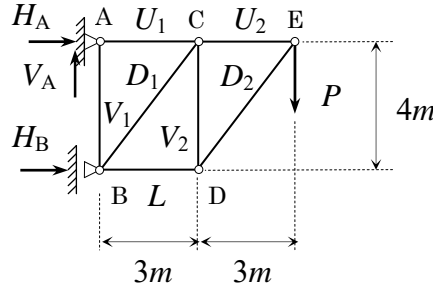


図-A

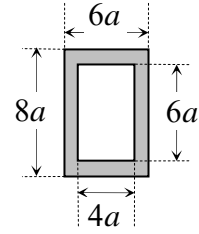


図-B

【解答】

(1) 水平方向の力の釣合から、 $H_A + H_B = 0$

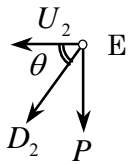
鉛直方向の力の釣合から、 $V_A = P$

A点回りのモーメントの釣り合いから、 $H_B \times 4m = P \times 6m \therefore H_B = \frac{3}{2}P$ また、 $H_A = -\frac{3}{2}P$

以上をまとめると、 $H_A = -\frac{3}{2}P$, $V_A = P$, $H_B = \frac{3}{2}P$

(2) “節点法”を用いて、各部材力を求めると、次のようになる。

①E点について、 $\sin \theta = \frac{4}{5}$, $\cos \theta = \frac{3}{5}$ だから、



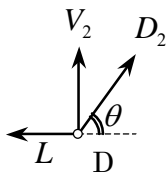
鉛直方向の力の釣合から、 $P + D_2 \sin \theta = 0$

$$\therefore D_2 = -\frac{P}{\sin \theta} = -\frac{5}{4}P$$

水平方向の力の釣合から、 $U_2 + D_2 \cos \theta = 0$

$$\therefore U_2 = -D_2 \cos \theta = \frac{5}{4}P \cdot \frac{3}{5} = \frac{3}{4}P$$

②D点について、



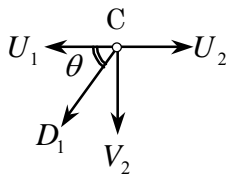
鉛直方向の力の釣合から、 $D_2 \sin \theta + V_2 = 0$

$$\therefore V_2 = -D_2 \sin \theta = \frac{5}{4}P \cdot \frac{4}{5} = P$$

水平方向の力の釣合から、 $L = D_2 \cos \theta$

$$\therefore L = D_2 \cos \theta = -\frac{5}{4}P \cdot \frac{3}{5} = -\frac{3}{4}P$$

③C点について、

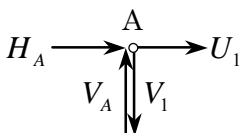


鉛直方向の力の釣合から、 $D_1 \sin \theta + V_2 = 0 \therefore D_1 = -\frac{V_2}{\sin \theta} = -\frac{5}{4}P$

水平方向の力の釣合から、 $U_1 + D_1 \cos \theta = U_2$

$$\therefore U_1 = U_2 - D_1 \cos \theta = \frac{3}{4}P - \left(-\frac{5}{4}P\right) \cdot \frac{3}{5} = \frac{3}{4}P + \frac{3}{4}P = \frac{3}{2}P$$

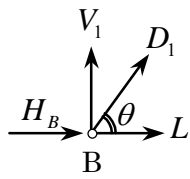
④A点について、



鉛直方向の力の釣合から、 $V_1 = V_A = P$

水平方向の力の釣合から、 $U_1 + H_A = \frac{3}{2}P - \frac{3}{2}P = 0$ (check O.K.)

⑤B点について、



鉛直方向の力の釣合から、

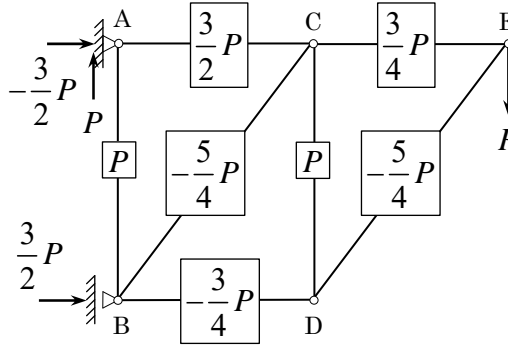
$$V_1 + D_1 \sin \theta = P - \frac{5}{4}P \cdot \frac{4}{5} = 0 \quad (\text{check O.K.})$$

水平方向の力の釣合から、

$$H_B + L + D_1 \cos \theta = \frac{3}{2}P - \frac{3}{4}P - \frac{5}{4}P \cdot \frac{3}{5} = 0 \quad (\text{check O.K.})$$

以上をまとめると、

$$\boxed{U_1 = \frac{3}{2}P}, \quad \boxed{U_2 = \frac{3}{4}P}, \quad \boxed{D_1 = D_2 = -\frac{5}{4}P}, \quad \boxed{V_1 = V_2 = P}, \quad \boxed{L = -\frac{3}{4}P}$$



(3) 荷重 P を漸次増加するとき、最初に座屈を起こす荷重 P_{CR} とその部材を求める。

まず、圧縮力が作用する部材は、BC(D_1)、DE(D_2)、BD(L)の3部材であり、部材長 $BC=DE$ かつ $D_1=D_2$ であるから、部材 BC(D_1)と DE(D_2)、部材 BD(L)の2種類の部材について、座屈を起こす荷重 P_{CR} を比較して小さい方が最初に座屈することになる。

ここで、両端回転支持の場合の最小座屈荷重は、 $\frac{\pi^2 EI}{\ell^2}$ で表される。

ここに、 ℓ : 部材長、 I : 弱軸に関する断面2次モーメントである。

2種類の部材の座屈を起こす荷重 P_{CR} は、次のようになる。

①部材 BC(D_1)と DE(D_2)の座屈を起こす荷重 P_{CR}^D について

$$\frac{5}{4}P_{CR}^D = \frac{\pi^2 EI}{5^2} \quad \therefore P_{CR}^D = \frac{4}{5} \cdot \frac{\pi^2 EI}{5^2} = \frac{4}{125} \pi^2 EI$$

②部材 BD(L)の座屈を起こす荷重 P_{CR}^L について

$$\frac{3}{4}P_{CR}^L = \frac{\pi^2 EI}{4^2} \quad \therefore P_{CR}^L = \frac{4}{3} \cdot \frac{\pi^2 EI}{4^2} = \frac{1}{12} \pi^2 EI$$

ここで、座屈を起こす荷重 P_{CR} を比較すると、次のようになる。

$$P_{CR}^D = \frac{4}{125} \pi^2 EI = \frac{48}{125 \cdot 12} \pi^2 EI < P_{CR}^L = \frac{1}{12} \pi^2 EI = \frac{125}{125 \cdot 12} \pi^2 EI \quad \therefore P_{CR}^D < P_{CR}^L$$

したがって、最初に座屈を起こす部材は、部材 BC(D_1)と DE(D_2) である。

次に、断面2次モーメント I は、弱軸に関する断面2次モーメントであるから、

$$I = \frac{8a \cdot (6a)^3}{12} - \frac{6a \cdot (4a)^3}{12} = 144a^4 - 32a^4 = 112a^4$$

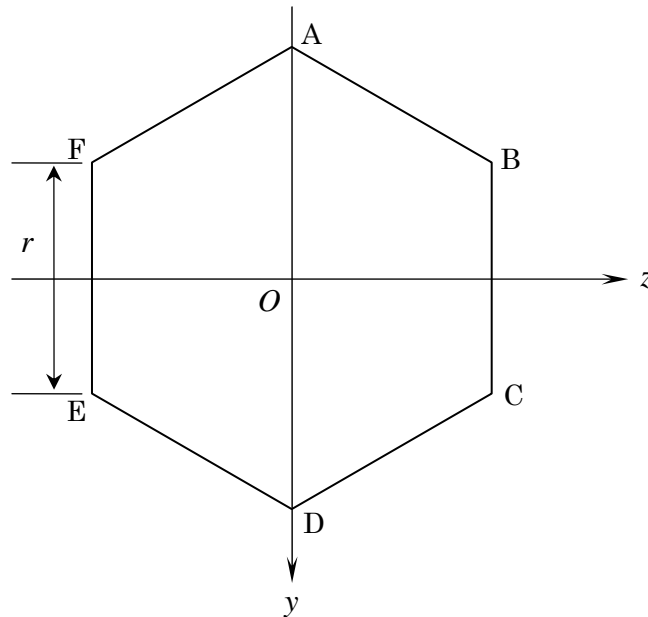
よって、最初に座屈を起こす荷重 P_{CR} は、次のようになる。

$$P_{CR} = P_{CR}^D = \frac{4}{125} \pi^2 EI = \frac{4}{125} \pi^2 E \cdot 112a^4 = \frac{448}{125} \pi^2 Ea^4 \quad \therefore \boxed{P_{CR} = \frac{448}{125} \pi^2 Ea^4}$$

【問3】 下図に示す一辺の長さが r の正六角形断面の『断面の核』を以下の手順で求め、図示せよ。

なお、 y, z 軸は、主軸である。

- (1) 正六角形断面の面積 A を求めよ。
- (2) 正六角形断面軸の y 軸と z 軸に関する断面2次モーメント I_y, I_z を求めよ。
- (3) 直線 BC が中立軸になるときの荷重位置 $B'(e_y, e_z)$ を求めよ。
- (4) 直線 AB が中立軸になるときの荷重位置 $A'(e_y, e_z)$ を求めよ。
- (5) 『断面の核』を斜線で図示せよ。



【解答】

- (1) 一辺の長さが r の正六角形断面の面積 A は、一辺の長さが r の正三角形の面積の 6 倍であるから、

$$A = 6 \times \left(\frac{1}{2} \cdot r \cdot r \sin 60^\circ \right) = 3r^2 \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{3\sqrt{3}}{2} r^2 \quad \therefore \boxed{A = \frac{3\sqrt{3}}{2} r^2}$$

- (2) 正六角形断面軸の y 軸と z 軸に関する断面2次モーメント I_y, I_z は次のようになる。

$$I_y = \frac{r \cdot (\sqrt{3}r)^3}{12} + \left\{ \left(\frac{1}{2} \cdot \frac{r}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}r}{2} \right) \times \left(\frac{1}{3} \cdot \frac{\sqrt{3}r}{2} \right)^2 + \frac{r \cdot \left(\frac{\sqrt{3}r}{2} \right)^3}{36} \right\} \times 4 = \frac{3\sqrt{3}r^4}{12} + \left\{ \frac{\sqrt{3}r^2}{2} \times \frac{r^2}{12} + \frac{3\sqrt{3}r^4}{144} \right\}$$

$$= \frac{3\sqrt{3}r^4}{12} + \frac{\sqrt{3}r^4}{24} + \frac{\sqrt{3}r^4}{48} = \frac{12+2+1}{48} \sqrt{3}r^4 = \frac{15}{48} \sqrt{3}r^4 = \frac{5\sqrt{3}}{16} r^4$$

$$I_z = \frac{\sqrt{3}r \cdot r^3}{12} + \left\{ \left(\frac{1}{2} \sqrt{3}r \cdot \frac{r}{2} \right) \times \left(\frac{r}{2} + \frac{r}{2} \cdot \frac{1}{3} \right)^2 + \frac{\sqrt{3}r \cdot \left(\frac{r}{2} \right)^3}{36} \right\} \times 2 = \frac{\sqrt{3}r^4}{12} + \left\{ \frac{\sqrt{3}r^2}{2} \times \left(\frac{2r}{3} \right)^2 + \frac{\sqrt{3}r^4}{144} \right\}$$

$$= \frac{\sqrt{3}r^4}{12} + \frac{2\sqrt{3}r^4}{9} + \frac{\sqrt{3}r^4}{144} = \frac{12+2 \cdot 16+1}{144} \sqrt{3}r^4 = \frac{45}{144} \sqrt{3}r^4 = \frac{5\sqrt{3}}{16} r^4$$

$$\therefore \boxed{I_y = I_z = \frac{5\sqrt{3}}{16} r^4} \Rightarrow y \text{ 軸と } z \text{ 軸は主軸}$$

従って、正六角形断面軸の y 軸と z 軸に関する断面半径は、次のようになる。

$$r_y^2 = \frac{I_y}{A} = r_z^2 = \frac{I_z}{A} = \frac{\frac{5\sqrt{3}}{16}r^4}{\frac{3\sqrt{3}}{2}r^2} = \frac{5}{16} \cdot \frac{2}{3} r^2 = \frac{5}{24} r^2$$

(3) 直線 BC が中立軸になるときの荷重位置 $B'(e_y, e_z)$ を求める。

直線 BC の y 切片は $n_y = \infty$ ， z 切片は $n_z = \frac{\sqrt{3}}{2}r$ だから、

$$e_y = -\frac{r_z^2}{n_y} = -\frac{\frac{5}{24}r^2}{\infty} = 0, \quad e_z = -\frac{r_y^2}{n_z} = -\frac{\frac{5}{24}r^2}{\frac{\sqrt{3}}{2}r} = -\frac{5}{24} \cdot \frac{2}{\sqrt{3}} r = -\frac{5\sqrt{3}}{36} r$$

$$\therefore B'(e_y, e_z) = \left(0, -\frac{5\sqrt{3}}{36} r \right)$$

(4) 直線 AB が中立軸になるときの荷重位置 $A'(e_y, e_z)$ を求める。

直線 AB の y 切片は $n_y = -r$ ， z 切片は $n_z = \sqrt{3}r$ だから、

$$e_y = -\frac{r_z^2}{n_y} = -\frac{\frac{5}{24}r^2}{-r} = \frac{5}{24} r, \quad e_z = -\frac{r_y^2}{n_z} = -\frac{\frac{5}{24}r^2}{\sqrt{3}r} = -\frac{5}{24} \cdot \frac{1}{\sqrt{3}} r = -\frac{5\sqrt{3}}{72} r$$

$$\therefore A'(e_y, e_z) = \left(\frac{5}{24} r, -\frac{5\sqrt{3}}{72} r \right)$$

(5) 『断面の核』を図示すると、斜線部分のようになる。

